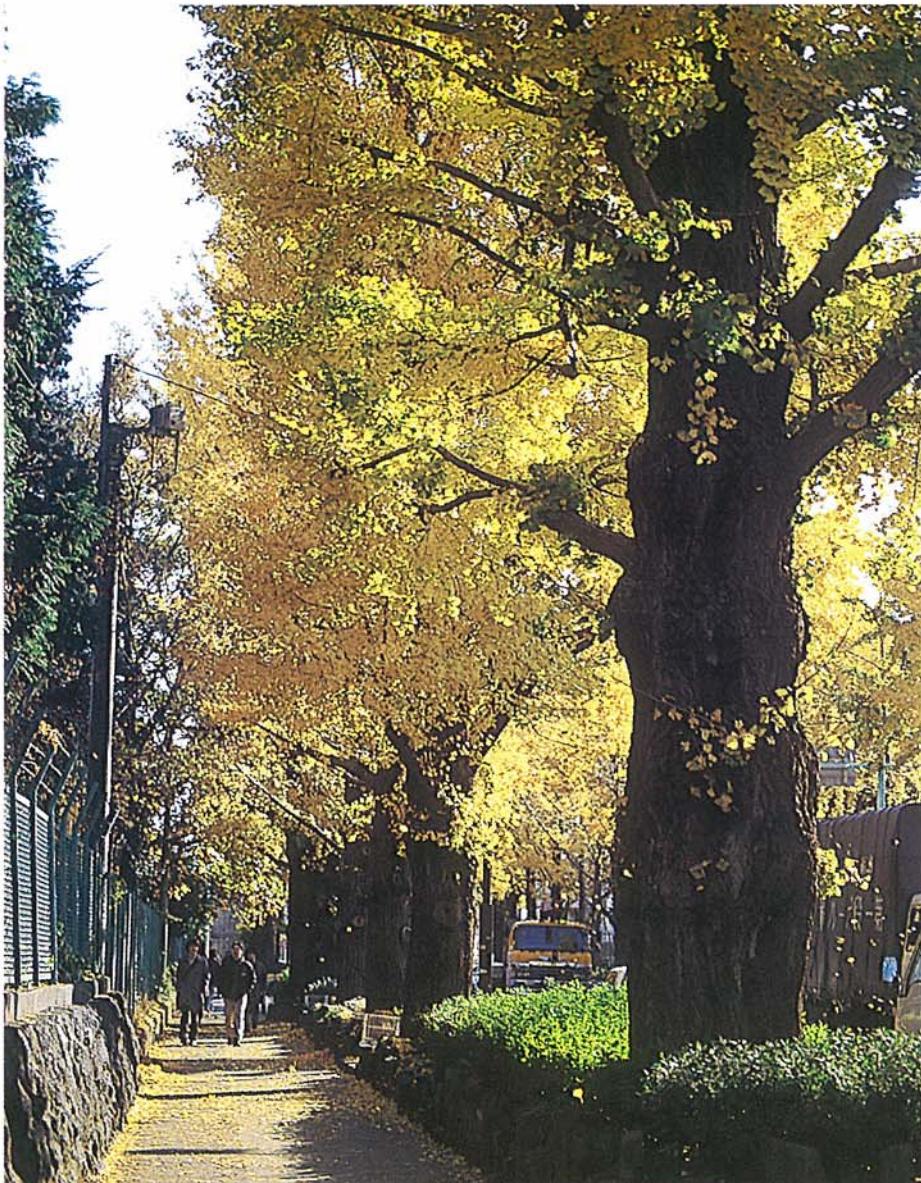


# 日本大学 三島

## 同窓会々報

第 30 号

平成 11 年 11 月 3 日  
静岡県三島市文教町 2  
日本大学三島同窓会発行



### 平成 - 1 年度 常任幹事会・幹事会開催

#### ◎ 常任幹事会

平成十一年七月二十四日(土)十五時から、常任幹事会に引き続いて開催された。平井千枝会長挨拶のあと、事務局において開催された。

久保田勝常任幹事の司会で進行され、平井千枝会長挨拶の後、議長団・書記が選出された。

議長には柴田正副会長、副議長には小早川隆義常任幹事、書記には広岡達郎常任幹事がそれぞれ選出され、次の議事が審議された。

- 一、平成十年度事業報告
- 一、平成十一年度事業計画(案)
- 一、平成十一年度決算報告
- 一、監査報告
- 一、平成十一年度予算(案)
- 一、役員の件
- 一、総会の件
- 一、各科活動状況報告
- 一、その他

佐野事務局長から、平成十年度事業報告がなされ、続いて平成十年度決算報告が、宮川守常任幹事会計担当から報告、また、監査報告は会計監査の方が欠席されたため代わりに佐野事務局長より報告があり、それが承認された。

役員の件について、次期会長に柴田正副会長が立候補し幹事会より賛同を得たが、事務局から欠席の山田浩子副会長の名が上げられた為、決定して審議された。

続いて平成十一年度事業計画(案)及び平成十一年度予算(案)について審議され、それぞれ承認された。

幹事会終了後、懇親会が同会場にて、和やかに開催され、十一月三日の総会に結集する旨を含む言葉で閉会された。

を保留、総会までに報告できるよう

に会長一任となられた。

続いて常任幹事の相田信次氏を副

会長に、商経科(昼)の工藤政則氏

を幹事に推薦され、いずれも承認さ

れた。

事務局においては、永年事務局長を担当していました佐野勝己氏が異動により、本部へ転勤されたので、後任に田中由雄常任幹事庶務担当が推薦され、また、会計担当には久保和之常任幹事が、会計監査には宮川守常任幹事会計担当が推薦され承認された。

その他各期より幹事の推薦があれ

ば、十月二十日までに事務局に連絡

をして下さいとの旨の報告があった。

総会の件については、例年のとおり十一月三日(水)十六時からの開催が承認された。

その他の件で規約の改正について佐野事務局長から、「第三条：本会は日本大学三島予科、三島教養部、文理学部三島校舎、短期大学部三島、国際関係学部、大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労のあると認められる特別会員・名誉会員により構成する。」

「第二十五条：会員は終身会費として金参千円を、入学時に日本大學三島会計課に納入すること。」

二項目について一部分を改正した旨の提案が出され承認された。

その他、学泉寮の記念誌を発行したいので補助願いたいと申し出があり、幹事会の議事は終了し、司会の挨拶で閉会された。

幹事会終了後、懇親会が同会場にて、和やかに開催され、十一月三日の総会に結集する旨を含む言葉で散会した。

# 「静岡の思い出」



国際関係学部次長

宇佐美滋

最初に派遣された静岡勤務だけであつた。これが運命的出会いである。

昭和三四四年、狩野川台風の翌年の事である。支局の先輩たちは台風の取材がいかに大変だったかを交々語つてくれたが、その年も大きな台風が静岡に接近した。それが最後の土壇場で西にそれで伊勢湾台風となつた。しかし大事件はそれだけで一年間の静岡勤務は樂しいものであった。市を中心にある七間町の支局の建物の二階に下宿し、日曜も祭日もなく毎日カメラを肩に、自転車で県警本部と静岡中央署と南署をカバーする『サツ回り』記者。事件には滅法弱く、サツ種のスクープはサツパリだつた。しかし静岡はさすがに徳川ゆかりの町だけに、市民の中には歴史的、文化的な素養のある人が多く、随分助けられた。

日本大学国際関係学部に来てからまだ四年しか経っていないが、ここはもつと前からいたような居心地のよさを感じさせる土地柄である。実は私は東京生まれの東京育ちで、日本大学発祥の地、東京神田の三崎町の隣町、西神田の生ままで、通つた小学校は西神田小学校といい、旧日本本部（現法学部図書館）の隣にあつた。何もない平和な時代ならあと一年で卒業し「仰げば尊し」の歌声とともに中学に進んだはずなのだが、五年が終わつて六年生になつたとたんに、疎開が始まり、わが家も縁故を頼つて千葉県の姉ヶ崎に疎開した。

空襲が激しくなると、毎晩のように東京が炎上するのを悔し涙を流しながら見つめたものである。わが家も四月一三日の空襲で灰塵に帰してしまつた。終戦とともに帰京したが、学校は疎開先の卒業となり、西神田小の卒業名簿に私の名はない。千葉には楽しい思い出ではなく、卒業の記念写真一枚も残っていない。わが家の記念アル

バムでも空白のページとなつている。

西神田、三崎町界隈はあらかた焼けてしまつたが、小学校と日大は残つた。中学、高校時代、私はよく日大の図書館を利用させてもらつた。重厚な建物、薄暗い閲覧室は勉強に打ち込める絶好の場を提供してくれた。ここが今にして思えば私の「勉学のルーツ」であつた。しかしこの思い出の場にも変革の波は押し寄せる。一昨年だつたか、東京試験の監督で西神田へいった時に、母校を訪ねようとした所、そこは取り壊されて跡形もなくなつていて。いまそこには高層のアパートが立つてゐる。隣の図書館はモダンな法学部図書館に改築中である。いずれも町の発展のために喜ばしいことではあるが、時代の流れを痛感させられ、寂しさを禁じえなかつた。

大学を卒業後、新聞社の外信部に勤務したため、ニューヨーク、ワシントン、中国、香港、北ベトナムなど外国経験は積んだが、日本国内の方は駆け出し、首として

たこともある。少しタイミングをずらすことを見えた。

当時静岡にはアメリカ文化センターがあり、時々取材と息抜きに寄つたが、ここで留学生試験があることを教えられたのが、結局私の運命を開く機会となつた。たまたまその日曜日は休みだつたので、支局長に無断で横浜の試験場で受験した。二次試験は東京で行われるので、支局長の許可をとつて受験した。「落ちたら承知しないぞ」という手荒い激励の言葉だった。センターのスタッフの好意と支局長の協力がなければ私の運命が開かれるとはなかつたであろう。

卒業したわけではないが、因縁あるさからざる物を感じるのである。いま教師の立場でつくづく思うのは、同窓会を意義あらしめるのは、思い出すに値する様々なイベントを学生諸君に自ら作らせるこゝと、その為にできるだけの助言と協力をするという事だと思う。美しい自然の下で、よい設備を与え、可能性を思う存分トライさせる。

登呂遺跡の紹介に努めた考古学の権威だったので、教えられること多かつた。彼は自分の子供に「登」と名付けた。スポーツの取材も楽しかつた。高校野球の予選には、草薙球場に連日のよういでかけた。ランナーがホームへ滑り込むクロップレーをネット裏から望遠レンズで撮つたが、土煙でランナーの姿が消えてしまつという失敗をし

## 日本大学予科学泉寮記念碑除幕式挙行

日本大学予科学泉寮の集い（代表 和智鉄也氏）の寮の友達が永年希望しておりました学泉寮の記念碑をこの度、学校当局のご理解とご配慮により、建立することとなりました。記念碑の除幕式が、平成11年11月2日（火）午後2時30分より、日本大学予科学泉寮記念碑前（図書館前）において、学部長の秋山正幸先生をはじめ多数の教職員の先生方の出席のもと挙行されました。



# 同窓会長賞授賞者

国際関係学科四年

高島 寛幸

けではないと思います。よつて、これら大学生生活で実感したことを基礎に、前進を続けようと考えております。

国際関係学科四年

正木 創一

この四年間で何を得たか、確かに実感はあるものの、それを言葉で正確に言うことは難しいことだと思います。難しいことではあると思いますが、次のことをこの四年間で得たように思えます。

まず、大学は高校のそれとは違  
い自分で何を学ぶかを選択し履修  
する。当たり前のことですがあ  
べて自己責任の世界です。よつて  
自己の判断で行動し、その結果に  
ついては自己で責任を負わなけれ  
ばなりません。

次に、大学には様々な考え方や  
ものの見かたを持った人々が集まっ  
てきます。その中で私がCSAの  
総務担当として、自分を含め学生  
の意見を集約し、それを的確に先  
生方に伝えるその答えに対し、的  
確な対応をするという活動を通し  
て、自分を埋没させないためには、  
まず、相手が何を意図して話した  
のかを良く聞き、そして、相手  
の問い合わせ意見に的確に自分の意見  
を述べることすなわち、相互理解  
が重要であると実感しました。

これら二つすなわち、自己責任  
と相互理解が、大学生活で得たも  
のではないかと考えます。しかし、  
私はこれらのことすべて得たわ

国際関係学科四年  
関根 大助

体育会執行部には他の団体やサー  
クルとは違う特色がある。体育会  
の役員の多くが皆、自ら好き好ん  
で執行部に入つたわけではない。  
誰もやりたくないが誰かがやらな  
くてはならない。我々が執行部に  
入る動機は「義理と人情」の世界  
で、決して「自己満足」の世界で  
はないのだ。

僕らには当然、学校の授業があ  
り、バイトがあり、そして部の練  
習、試合がある。その上執行部の  
仕事だ。人にはアホだと思われる。  
狂気の沙汰と思われ、変わり者が  
経済的には頼りつつも、それ以外  
の事は全て自分でやらなければな  
らない。そんな三島での生活にお  
いて、人とのつながりを特に感じ  
たのが、文化会執行部での活動で  
ある。幾つかの縁で私はここに來  
た。多くの先輩から色々なことを  
教えられ、多くの同輩と苦労を共  
にしながら乗り越え、多くの後輩  
に自分達のしてきた事を伝える。  
どこにでもあるこの単純なサイク  
ルが実は最も重要なことであるこ  
とに気付いた。

私は、この三島キャンパスで得  
た財産（人）を胸にこれからの人  
生を送つて行きたいと思う。

国際関係学科三年  
徳田 端季

しないのが美学であつたろうし口  
にする必要もなかつたのではない  
だろうか。自分でも自らこんな事  
を書くのはダサーと思つてしまつ。  
けれども、この文を読む人が少な  
くとも、あえて書こうと思つた。  
そろそろまでに時代は「お人好しの  
ヤセガマン野郎」には空しく、寂  
しい方向へ向かつていると僕は感  
じる。「人間」の「人の間」の部分  
が希薄になつてゐるのではないか？  
僕はそう思ひざるをえない。

国文専攻二年  
星 美保子

同窓会長賞では「お金」がもら  
える。その事でとまどいや迷いも  
あつた。しかし栄養失調と公共料  
金にも苦しむ現状を思い結局頂い  
た。この「ご褒美」で執行部の仲  
間と酒でも飲みにいこう。苦しかつ  
たが今では良き思い出となつた執  
行部での日々を肴にでもして。

「何かを始めよう」と考え始め  
たとき、イキイキとしました。  
まるで自分自身が輝いているよう  
でした。それが入学したての頃の  
私は。

しかし、やつと探しみつけだし  
た道を、歩み始めたとき、周りの  
人たちがキラキラと輝いてみえま  
した。自分の光はただのスパンコ  
ルの様に小さくて、自分自身では  
光ることのできないものに感じら  
れました。新しくできた友人も皆、  
自分の人生を楽しんでいるようで  
した。そして、自分の足で好きな  
道を歩んでいるような人たちばか  
りでした。

はじめは私も、周りの人に合わ  
せて、不安と大きな荷物を背  
負いながら、早歩きでその道を進  
んでいました。しかし、すぐに  
前へ進めなくなりました。また、  
自分にはむいていないのかも、と

ていつたと思います。何事でも一度やろうと決心したら、それに向  
かつて精一杯努力することが、新しい自分を発見できることへつな  
がつていくと思います。私は富桜  
祭はもちろん、いくつもの様々な  
の学生生活も、一生懸命にそして  
楽しく過ごしていきたいと思つて  
います。

度やろうと決心したら、それに向  
かつて精一杯努力することが、新  
しい自分を発見できることへつな  
がつていくと思います。私は富桜  
祭はもちろん、いくつもの様々な  
の学生生活も、一生懸命にそして  
楽しく過ごしていきたいと思つて  
います。

も思いました。

そんな状況から脱出でききつかけは、ただ「がんばれ」という言葉だけ。それも、「あと少しだけでいいからがんばれ」です。ただそれだけで、「不安」という荷物が軽くなつてゆきました。そして、一粒のスパンコールが大きくなつたように感じました。

今でも、自分には無理だ、と思うことはたくさんあります。「ちょっとだけ」と思つても気分が重いときもあります。しかし、それが自分がより輝かせる第一歩なのだ、と思うようになりました。そして、周りと比べるよりも、昔の自分と比べてどれだけ成長したのか、と考えるようになりました。こうした考えをこの先も持ち続け、この大学で得た成長をこれから的人生に役立て、更に大きな光にしていきたいと思います。

## 同窓会だより

### 国際関係学部同窓会

平成十一年度の国際関係学部同窓会が、平成十一年十一月二十日(土)十六時から、ホテルグランドパレス(東京都千代田区)にて開催されます。

本年は国際関係学部創設二十周年ということもあり、東京で初めて

て開催することとなりました。東京近郊の同窓生を中心に一〇〇名以上が参加する予定です。

なお当日は、本学部文化団体ジャズアンドフュージョン部による生演奏が行われます。

(文責 広岡達郎)

平成十一年度の短期大学部文学科同窓会(桜文会)が、平成十一年二月十三日(土)午後四時から三島プラザホテルにて開催されました。この日は晴天で、第三十回の総会に相応しく卒業を三月に控えた第三十二期生、同窓会諸姉も数多くあつまり、嶋津津史短大次長をはじめ多くの先生方にご列席いたしました。

山田浩子会長の挨拶のあと来賓としてお迎えした秋山正幸国際関係学部長、並びに平井千枝三島同窓会長のお言葉では平成十一年度の新学科設立と改組転換のお話があり、会場は厳粛な雰囲気となりました。続く嶋津津史先生の乾杯の音頭で、歓談が始まりました。

当日は構内の様子を撮影したビデオ上映などもあり、会場は和やかな雰囲気に包まれました。またビンゴ大会や懐かしい先生方との歓談もあり、盛大な総会・懇親会を開くことができました。桜文会を通じて、これからも会員の方々

が交流を深め、新たなる発展につながることを願つて止みません。

最後になりましたが、もと英文専攻主任の結城健六朗先生が平成十一年二月十二日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を示すとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

(文責 根岸美雪)

平成十一年度の短期大学部文学科同窓会(桜文会)が、平成十一年三月をもつて、最後の卒業式となりました。謹んで哀悼の意を示すとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

(文責 根岸美雪)

期会長につては、総会まで会長、副会長に一任されることとなつた。特に今回は商経二部が平成十一年度の当番期を含む約六十名の会員、菊地達雄事務局長をはじめ恩師の先生方や三島同窓会からの来賓の方々をお迎えして、なごやか

なり、今後の同窓会の存続等について意見交換がなされ、存続はさ

せて、同窓会の実施方法に問題があり、少しでも多くの同窓生を参加させる方向性で意見の一一致をみました。

引き続き懇親会が開催され、少人数でも、和やかな雰囲気の中、有意義な時間を過しました。最後に一月二十八日(金)の総会に結集するとの意志をお互いにかためながら会は閉会された。

(文責 久保田 勝)

## 桜栄会

### 桜栄会



### 商経科同窓会

平成十一年度の商経科同窓会幹事会が、十月二十二日(金)二年ぶりに八号館二階において、二十余名の参加により開催された。

山崎光義会長の挨拶に始まり、事業報告、収支報告の説明があり、引き続いて役員改選にあたり、次

名譽教授の川端晶子先生をお迎えし、大変興味深いお話を聞かせていただきました。引き続き行われた懇親会は、九期・十九期・二十期の当番期を含む約六十名の会員、菊地達雄事務局長をはじめ恩師の先生方や三島同窓会からの来賓の方々をお迎えして、なごやかな会となりました。

(文責 小野澤美和)

平成十一年度の桜栄会では、毎年会報「桜栄」を発行しております。今年度は、三十四号を平成十一年三月二十日に発行し、約七、七〇〇名の全会員に郵送いたしました。当番期の方々を中心にして作成し、特色ある会報をお届けできることと思います。



# 平成10年度 業 報 告

## 1 三島同窓会長賞授与

平成10年度日本大学三島キャンパス在学生から、次の者が推薦された。

・同窓会長賞（副賞記念品）は、国際関係学部2名、短期大学部3名に贈られ、平成11年3月25日の卒業式当日、帝国ホテルにおいて授与式が行なわれた。

・同窓会長賞（副賞奨学金）は、国際関係学部4名、短期大学部2名に贈られ、4月5日の開講式当日授与式が行なわれた。

同窓会長賞（副賞記念品） 5名

大越久美子（国際関係学科4年） 佐竹 篤（国際関係学科4年）

佐野 隆子（文学科国文専攻2年） 成島敦子（文学科国文専攻）

松岡功之（商経学科二部）

同窓会長賞（副賞奨学金） 6名

高島寛幸（国際関係学科3年） 正木創一（国際関係学科3年）

関根大助（国際関係学科3年）

徳田端季（国際関係学科2年） 星美保子（文学科国文専攻）

佐藤美幸（生活文化学科生活文化専攻）

## 1 学園歌集発行

2,000部を発行し、平成10年4月国際関係学部・短期大学部各学科の新入生全員に対し入学祝いとして渡した。

## 1 会報発行

会報29号、平成10年11月3日付 10頁 3,000部を発行した。

## 1 各科同窓会等補助

国際関係学部同窓会・桜文会・桜栄会同窓会及び大学の体育会に補助した。

また、桜文会・桜栄会の名簿作成に対して補助した。

## 1 常任幹事会

平成10年6月26日(金)17時30分から、国際関係学部本館3階会議室で開催した。

平成10年10月14日(水)17時から、国際関係学部本館3階会議室で開催した。

## 1 幹事会

平成10年6月26日(金)18時から、国際関係学部本館3階会議室で開催した。

平成10年10月14日(水)18時から、国際関係学部本館3階会議室で開催した。

## ○ 同窓会並びに懇親会

平成10年11月3日(日)16時から、国際関係学部記念館で開催した。

## 1 三島キャンパス50周年記念実行委員会

平成10年10月14日(水)15時から、国際関係学部本館3階会議室で開催した。

## 1 箱根駅伝応援

平成11年1月3日(日)復路スタート地点及び第2中継点近くで応援した。

## 平成10年度 収支決算書

(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

単位：円

支出の部				収入の部			
項目	予算額	決算額	差異	項目	予算額	決算額	差異
奨 学 費	430,000	634,100	△ 204,100	会 費 収 入	3,960,000	3,960,000	0
学 園 歌 集 発 行 費	210,000	207,900	2,100	雑 収 入	243,706	319,905	△ 76,199
同 窓 会 報 発 行 費	200,000	189,000	11,000	前 受 金 収 入	2,400,000	2,250,000	150,000
各 科 同 窓 会 等 補 助	150,000	490,000	△ 340,000				
学 生 団 体 補 助	400,000	200,000	200,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	400,000	359,155	40,845				
会 議 会 合 費	300,000	221,737	78,263				
通 信 運 搬 費	40,000	30,500	9,500				
事 務 費	120,000	37,886	82,114				
雑 費	150,000	205,000	△ 55,000				
50周年記念事業費	15,000,000	15,000,000	0				
予 備 費	700,000	0	700,000				
計	18,100,000	17,575,278	524,722	計	6,603,706	6,529,905	73,801
基 金 繼 入 額	1,200,000	1,600,000	△ 400,000	基 金 繼 出 額	15,000,000	15,000,000	0
次 年 度 繰 越 金 (前受金) (繰越金)	2,400,000 (2,400,000) (0)	2,450,921 (2,250,000) (200,921)	△ 50,921 (150,000) (△ 200,921)	前 年 度 繰 越 金	96,294	96,294	0
支 出 の 部 合 計	21,700,000	21,626,199	73,801	収 入 の 部 合 計	21,700,000	21,626,199	73,801

## 貸 借 対 照 表

(平成11年3月31日現在)

単位：円

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	3,950,921	基 金	27,500,000
定 期 預 金	26,000,000	( 前 年 度 繰 越 額 )	( 40,900,000)
合 計	29,950,921	( 本 年 度 繰 入 額 )	(△13,400,000)
		次 年 度 繰 越 金	2,450,921
		( 前 受 金 )	( 2,250,000)
		( 繰 越 金 )	( 200,921 )
		合 計	29,950,921

## 基 金 の 内 訳

単位：円

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	合 计
同 窓 会 事 業 基 金	34,000,000	△ 15,000,000 1,000,000	20,000,000
国 际 関 係 学 部 校 友 会 加 盟 基 金	6,900,000	600,000	7,500,000
合 計	40,900,000	△ 13,400,000	27,500,000

平成10年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成11年7月24日

会計監査 染谷徳昭  
同土屋忠得

# 平成11年度 事 業 計 画 (案)

**1 三島同窓会長賞授与 (副賞:記念品もしくは奨学金)**

日本大学国際関係学部および短期大学部を平成12年3月卒業・4月に進級の予定の者を対象とする。

同窓会長賞並びに記念品	国際関係学部	4年卒業予定者	各学科1名
	短期大学部	2年卒業予定者	各学科1名
同窓会長賞並びに奨学金	国際関係学部	各学科2・3年生	各学年1名
	短期大学部	1年生	各1名

**1 学園歌集発行予定**

2,000部を発行し、平成11年4月国際関係学部・短期大学部各学科の新入生全員に対し入学祝いとして渡す。

**1 会報発行予定**

会報30号(平成11年11月)発行予定 10頁 3,000部

**1 各科同窓会等補助**

- (1) 各科の名簿編集の推進及び各科同窓会行事に対する補助。
- (2) 大学体育会・文化会に対する補助。

**1 常任幹事会**

平成11年7月24日(土)15時から、国際関係学部8号館2階において開催する。

**1 幹事会**

平成11年7月24日(土)16時から、国際関係学部8号館2階において開催する。

**1 総会並びに懇親会**

平成11年11月3日(木)16時から、国際関係学部記念館において開催する。

**1 箱根駅伝応援**

平成12年1月3日(月)復路スタート地点及び第2中継点近くで応援する。

## 平成11年度 収支予算書(案)

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)

単位：円

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	増・減(△)	項 目	本年度予算額	前年度予算額	増・減(△)
奨 学 費	650,000	430,000	220,000	会 費 収 入	3,789,000	3,960,000	△ 171,000
学園歌集発行費	210,000	210,000	0	雑 収 入	360,079	243,706	116,373
同窓会報発行費	200,000	200,000	0	前 受 金 収 入	2,250,000	2,400,000	△ 150,000
各科同窓会等補助	200,000	150,000	50,000				
学生団体補助	400,000	400,000	0				
総会並びに懇親会費	400,000	400,000	0				
会議会合費	300,000	300,000	0				
通信運搬費	40,000	40,000	0				
事務費	100,000	120,000	△ 20,000				
雜費	150,000	150,000	0				
50周年記念事業費	0	15,000,000	15,000,000				
予備費	700,000	700,000	0				
計	3,350,000	18,100,000	△ 14,750,000	計	6,399,079	6,603,706	△ 204,627
基 金 繰 入 額	1,000,000	1,200,000	△ 200,000	基 金 繰 出 額	0	15,000,000	△ 15,000,000
次 年 度 繰 越 金 (前 受 金)	2,250,000	2,400,000	△ 150,000	前 年 度 繰 越 金 (△ 150,000)	200,921	96,294	104,627
(繰 越 金)	( 0 )	( 0 )	( 0 )				
支 出 の 部 合 計	6,600,000	21,700,000	△ 15,100,000	収 入 の 部 合 計	6,600,000	21,700,000	△ 15,100,000

幹	事 土屋 仁 (27・28)	幹	事 両角 勇 (42)	幹	事 菅野 利幸 (45・46)
幹	事 勝又 国信 (27・28)	幹	事 濱田 義之 (45)	幹	事 三枝 和彦 (46・47)
幹	事 長沢 龍助 (27・28)	幹	事 高藤 省三 (49)	幹	事 天野 寿一 (48・49)
幹	事 佐々木凱男 (27・28)	幹	事 河田 敏明 (50)	幹	事 堂村 光伸 (53・54)
幹	事 川崎 一成 (27・28)	幹	事 滝本 博 (53)		
幹	事 丸山富美男 (28)			幹	事 岩月 和男 (40・41)
幹	事 坂詰 正衛 (28・29)	幹	事 岩崎 尚枝 (41・42)	幹	事 中山 義昭 (41・42)
幹	事 望月 知林 (28・29)	幹	事 小永井京子 (43・44)	幹	事 渡辺 清 (42・43)
幹	事 安東 安生 (29・30)	幹	事 平岩美知子 (44・45)	幹	事 赤池 哲也 (42・43)
幹	事 田嶋 文義 (29・30)	幹	事 高橋真理子 (44・45)	幹	事 深井 富雄 (45・46)
幹	事 寺崎 哲郎 (29・30)	幹	事 石井千枝子 (46・47)	幹	事 河田 哲雄 (46・47)
幹	事 関 哲男 (29・30)	幹	事 勝亦 幾代 (56・57)	幹	事 西家 勝彦 (51・52)
幹	事 林田 達郎 (29・30)	幹	事 飯田まり子 (3・4)	幹	事 勝呂 千明 (52・53)
(○)	事 森 伸夫 (30・31)				
幹	事 道見 俊廣 (30・31)	幹	事 荒木とよ子 (39・40)	幹	事 加藤 博昭 (48・49)
幹	事 小野 武 (30・31)	幹	事 萩野谷 肇 (41・42)	幹	事 津田 正克 (50・51)
幹	事 宮尾 昌介 (30・31)	幹	事 上田 定義 (41・42)	幹	事 後藤 善夫 (52・53)
幹	事 菅 修 (30・31)	幹	事 加藤 久貴 (46・47)	幹	事 吉村しげみ (元・2)
幹	事 馬場 妙子 (30・31)	幹	事 秋山 稔明 (46・47)	幹	事 鈴木知恵美 (2・3)
幹	事 屋鋪 公平 (30・31)	幹	事 前田 正丈 (47・48)	幹	事 藤澤 博隆 (3・4)
幹	事 杉山 茂 (30・31)	幹	事 藤本 哲生 (47・48)	幹	事 小野 和彦 (3・4)
幹	事 根岸 元宏 (31・32)	幹	事 野田 栄 (47・48)	幹	事 白川 美保 (5・6)
幹	事 加藤 三洲 (31・32)	幹	事 棚橋 敏彦 (50・51)	幹	事 山瀬 匠 (8・9)
幹	事 渡部 浩司 (31・32)	幹	事 小松真由美 (51・52)		
幹	事 大村日出雄 (32)	幹	事 矢崎 真治 (53・54)	幹	事 遠藤日出夫 (37)
幹	事 甲田 知由 (33)			幹	事 渡辺 博夫 (37)
幹	事 杉本 直志 (33)	幹	事 高橋 美鶴 (41・42)	幹	事 江川 洋 (42)
(△)	事 市橋 悟 (34)	幹	事 石黒栄美子 (42・43)	幹	事 藤幡 俊量 (46)
幹	事 朴澤 英憲 (34・35)	幹	事 菊地 千尋 (43・44)		
幹	事 吉野 洋一 (35)	幹	事 佐藤千枝子 (44・45)	幹	事 松原 裕二 (54~57)
幹	事 横田 晋朗 (35)	幹	事 遠藤 晶子 (44・45)	幹	事 井上 晶子 (54~57)
幹	事 鈴木 肇 (35)	幹	事 神戸 絹代 (47・48)	幹	事 藤島 あや (3~6)
幹	事 御供 政紀 (35・36)	幹	事 野室香世子 (2・3)	幹	事 間川 直子 (4・5)
幹	事 小澤 文郎 (36)	幹	事 小澤 知子 (5・6)	幹	事 土屋 珠美 (3~6)
幹	事 大西 良雄 (37)			幹	事 志藤由美子 (3~6)
幹	事 小川 武司 (37)	幹	事 宮下 正俊 (39・40)	幹	事 紅林美智子 (3~7)
幹	事 多田清太郎 (37)	幹	事 濑村 隆治 (42・43)	幹	事 杉山 文予 (5~8)
幹	事 坂口 正剛 (37)	幹	事 吉田 力 (44・45)	幹	事 武井 照美 (5~8)
幹	事 小石川宣照 (37)	幹	事 長倉 良幸 (44・45)	幹	事 武藤 千鶴 (5~8)
幹	事 谷崎 邦昭 (38)	幹	事 前山 良光 (45・46)	幹	事 鈴木 優子 (5~8)
幹	事 栗山 康雄 (39)	幹	事 早川 清文 (45・46)	幹	事 室伏 寛美 (5~8)

# 平成11年度役員

						任期 (H10.4.1~H12.3.31)	
顧問	西村 満男	(21~23)	常任幹事	榎本 眞美	(45・46)	幹事	長谷川駿一 (23~25)
顧問	西村美枝子	(22~24)	常任幹事	西野 和衛	(46・47)	幹事	徳増 清二 (23~25)
顧問	中嶋 信行	(23~25)	常任幹事	江本 博勝	(46・47)	幹事	石野 進 (23~25)
顧問	奥田 吉郎	(23~25)	常任幹事	沼上 博美	(48・49)	幹事	石垣 恭弘 (23~25)
顧問	瀬川 一男	(23~25)	常任幹事	関野 幹雄	(48・49)	幹事	井上 忠彦 (23~25)
顧問	宮沢 主計	(25・26)	常任幹事	大島 裕二	(52・53)	幹事	細田 昭次 (23~25)
顧問	渡辺 勝一	(26・27)	常任幹事	斎藤 聰	(54~57)	幹事	杉山 吉房 (23~25)
顧問	見上 勇逸	(27・28)	常任幹事	守野 敏也	(55・56)	幹事	服部 房夫 (23~25)
顧問	鈴木 邦良	(27・28)	常任幹事	木村貴美和	(55~58)	幹事	浅海 武夫 (23~25)
顧問	石川 貞夫	(28・29)	常任幹事	小松 徳弘	(56~59)	幹事	芹澤 克治 (24・25)
			常任幹事	稲葉 桂子	(60・61)	幹事	石川 進 (25・26)
会長	平井 千枝	(34・35)	常任幹事	野田 正人	(62・63)	幹事	矢沢 知秋 (25・26)
副会長	小椋 貞夫	(28・29)	常任幹事	久保 和之	(63・元)	幹事	長倉 祐作 (25・26)
副会長	渡辺 洋子	(35・36)	常任幹事	廣岡 達郎	(元~4)	幹事	宮崎 茂樹 (25・26)
副会長	高田 菊平	(36)	会計監査	染谷 徳昭	(42・43)	幹事	伊藤 悟 (25・26)
副会長	小出 博	(40・41)	会計監査	土屋 忠得	(40・41)	幹事	辻 省二 (26・27)
副会長	柴田 正	(41・42)				幹事	田村 実 (26・27)
副会長	山田 浩子	(41・42)	幹事	高田日出太郎	(21)	幹事	浅原 好胤 (26・27)
副会長	山崎 光義	(44・45)	幹事	馬場 康夫	(21・22)	幹事	宮崎 乾朗 (26・27)
副会長	宮下 公雄	(54~57)	幹事	清 好一	(21~23)	幹事	高橋 英明 (26・27)
事務局長	佐野 勝己	(39・40)	幹事	石垣 義親	(21~23)	幹事	荒川 通 (26・27)
常任幹事 (庶務担当)	久保田 勝	(38・39)	幹事	小野 真一	(21~23)	幹事	岩永 勉 (26・27)
常任幹事 (庶務担当)	田中 由雄	(42・43)	幹事	米内 国夫	(21~23)	幹事	塙田 浩 (26・27)
常任幹事 (会計担当)	宮川 守	(47・48)	幹事	澤 直和	(21~23)	幹事	村野 静司 (26・27)
常任幹事	木村 幸夫	(23~25)	幹事	滝川 昇	(22~23)	幹事	大井 徹也 (26・27)
常任幹事	白鳥 義仁	(25・26)	幹事	中浜 卓弥	(22~24)	幹事	稻葉 昭 (26・27)
常任幹事	光信 優	(26・27)	幹事	中塙 利雄	(22~24)	幹事	吉田 昭二 (26・27)
常任幹事	鈴木 義樹	(28・29)	幹事	北條 晃	(22~24)	幹事	熊崎 文二 (26・27)
常任幹事	角田 義廣	(30・31)	幹事	長田 渉	(22~24)	幹事	輿水 啓一 (26・27)
常任幹事	市川 紀子	(36・37)	幹事	山内 茂	(22~24)	幹事	廣田 均 (26・27)
常任幹事	土屋 貞明	(42・43)	幹事	川口 正信	(22~24)	幹事	栗原 恒夫 (26・27)
常任幹事	小早川隆義	(42・43)	幹事	小林 昭雄	(22~24)	幹事	黒滝 祐司 (27・28)
常任幹事	渡辺 忠昭	(42・43)	幹事	金田 豊	(23~25)	幹事	小林 義尚 (27・28)
常任幹事	林田 孝二	(43)	幹事	小林 栄三	(23~25)	幹事	田村 栄一 (27・28)
常任幹事	山口 良児	(43・44)	幹事	勝俣 故充	(23~25)	幹事	上野 実 (27・28)
常任幹事	相田 信次	(44・45)	幹事	森下 菊美	(23~25)	幹事	関本 文彦 (27・28)
常任幹事	鈴木 正八	(44・45)	幹事	宝地 克哉	(23~25)	幹事	真部 喜孝 (27・28)
常任幹事	久保田博明	(45・46)	幹事	播本 弘	(23~25)	幹事	結城 勇一 (27・28)

第一条 本会は日本大学三島同窓会と称する。

第二条 本会は事務所を日本大学三島校舎におく。

第三条 本会は日本大学三島子科、三島教養部、文理学部三島校舎、短期大学部三島、国際関係学部、大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹

校舎、短期大学部三島、国際関係学部、大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹

## 一、事務局 一、地方支部

以上の要求があつた場合は臨時に招集しなければならない。

基準に従つて選出する。これに充てる。

会長 一名

寄付金その他の収入を以て会員は終身会費として金

副会長 若干名

参千円を入学時に、日本大

事務局長 一名

学三島会計課に納入するこ

常任幹事 若干名

と。

幹事 若干名

日に始まり翌年三月三十一

会計監査 二名

日に終る。

顧問 若干名

第二十五条 会員は終身会費として金

幹事 参与 若干名

と。

幹事 参与 若干名

第二十六条 本会の会計年度は四月一

機関として本会の実質的運營に任たる。

第二十七条 本会の目的および事業に貢献したものは幹事会の議

第十二条 幹事会は総会の代行決議

を経て、これを賞すること

第十三条 常任幹事会は必要に応じて隨時会長がこれを招集す

ることができる。

第十四条 常任幹事会は幹事会の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の執行にあたる。

第一九条 常任幹事は幹事会を構成し、幹事会を統理する。

第十五条 会計監査は本会会計の監査にあたる。

第二十条 会計監査は本会会計の監査にあたる。

第十六条 会員は事務局長指示のもと会員相互の連絡及び各

会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行

一、会則の改廃に関する事項。

昭和五十二年十一月改正

一、事業計画に関する事項。

昭和五十五年十一月改正

一、会則の改廃に関する事項。

昭和五十八年七月改正

一、その他の第五条にもとづいて必要と認められた事項。

昭和六十二年十一月改正

第六条 本会は目的達成のため左の機関をおく。

平成元年十一月改正

一、総会

平成三年十一月改正

一、幹事会

平成十一年十一月改正

一、常任幹事会

平成十一年十一月改正

第十一条 幹事会は年二回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事会三分の一

常任幹事・名譽役員は別に

## 日 本 大 学 三 島 同 窓 会 規 約

第二十二条 顧問・参与は幹事会の議

- 10 -